
敦賀発電所2号炉
敷地の地形, 地質・地質構造
K断層の活動性及び連続性評価
コメント回答資料2
調査データのトレーサビリティの確認結果

令和5年10月12日
日本原子力発電株式会社

余白

1. はじめに

本資料は、K断層の活動性及び連続性評価に係る調査データに関して、審査資料作成に係る業務プロセスを再構築し、調査データのトレーサビリティの確保のための確認を実施した結果、従前提示していたデータから変更等が必要となった箇所についてとりまとめたもの（ボーリング柱状図を除く）で、第1099回審査会合（令和4年12月9日）資料1-4に対して、以下の事項を反映したものである。

- ・第1113回審査会合（令和5年2月10日）資料1-1の11頁以降で提示した資料修正方針
- ・第1126回審査会合（令和5年3月17日）審査会合で説明した薄片試料作製位置の一部誤り等に係る不適合の是正処置
- ・第1126回審査会合（令和5年3月17日）審査会合までの関連コメント
- ・令和5年8月31日に提出した敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書（2号発電用原子炉施設の変更）の補正書（以下「今回補正書」という。）に反映した最新活動面の認定方法の見直し、K断層の活動性に係る調査データの確認結果等

2. 第1126回審査会合(令和5年3月17日)審査会合までの関連コメントと回答骨子(1/2)

No.	日付	回次	コメント内容	回答骨子
32	令和2年 6月4日	第865回 審査会合	誤記については過去分も含めてリスト化して整理し、変位センス等の破砕部性状については観察結果等のエビデンスと紐づけした資料として提示すること。	再構築した審査資料作成に係る業務プロセスに基づき調査データのトレーサビリティの確保のための確認を実施したことに伴い、従前提示していたデータから変更等が必要となった箇所について一覧表として整理し、変更等の前後比較表、補足の説明資料、エビデンス資料とともに取りまとめた。(第1099回審査会合及び第1113回審査会合でご説明。第1126回審査会合までのコメント等を反映し、修正版として本資料でご説明)
38	令和4年 12月9日	第1099回 審査会合	柱状図以外の調査データの変更箇所について、修正、変更、再観察、再評価等の用語の定義を明確にしたうえで、再観察や再評価の結果による調査データの変更なのか、他のデータの変更の影響を受けたことによる変更なのか、誤記なのか等を項目ごとに明確にすること(カテゴリー分けも含む)。	柱状図以外の調査データの変更箇所について、調査データの再観察等のプロセスを追記し、再観察、変更、副次的変更、修正等の用語の定義を明確にしたうえで、変更理由の説明、分類を明確にする。また、変更前の資料や変更に係る説明資料等を添付する。(第1113回審査会合でご説明。第1126回審査会合までのコメント等を反映し、修正版として本資料でご説明)
39	令和4年 12月9日	第1099回 審査会合	調査データの変更箇所について、変更前の資料や観察結果等も添付して、変更の根拠や理由を明確にすること。	
40	令和4年 12月9日	第1099回 審査会合	No.38, 39のコメントを踏まえた変更箇所に関わる資料作成方針について、例示的な資料により、審査会合にて説明すること。	No.38,39の対応を踏まえた変更箇所等に関わる資料作成方針について、例示的な資料を作成し審査会合でご説明した。(第1113回審査会合でご説明済)
44	令和5年 2月10日	第1113回 審査会合	変更・修正後の審査資料(性状一覧表等)を追加すること。	変更等の前後を比較した資料(前後比較資料)を追加した。(本資料でご説明)
45	令和5年 2月10日	第1113回 審査会合	副次的変更に関して、起点の変更・修正を一つの項目としているものは区別すること。	副次的変更の説明内容に、起点となる変更が含まれている箇所について、起点となる変更を別項目として記載した。(本資料でご説明)

2. 第1126回審査会合(令和5年3月17日)審査会合までの関連コメントと回答骨子(2/2)

No.	日付	回次	コメント内容	回答骨子
46	令和5年 2月10日	第1113回 審査会合	審査資料において、複雑なケースや例外的なケースについて、直接関係する変更項目とのみ紐づけするなど、統一的で正確な記載にするとともに、丁寧な記載にすること。	副次的変更の起点となる変更については、変更等の一覧表において、当該副次的変更の直接的な原因となる変更内容を記載した。また、同一破砕部で複数の副次的変更等がある場合については、副次的変更等の全体像と前後比較資料を補足する概要資料を追加した。(本資料でご説明)
47	令和5年 2月10日	第1113回 審査会合	以下の例示的なコメントを踏まえ、観察手順、試料観察箇所 of 適切性、必要な計測結果、写真、補足の説明等を追記するなどして、分かりやすい資料として見直しを行うこと。 ・BHTVで走向・傾斜を取得できなかった箇所に関して、見掛けの走向角の差について、計測結果、写真等の確認した内容を記載すること。 ・条線観察の前提条件である、コアの上盤、下盤がどちらかや、ポーリングコアの定方位化等について、必要な観察手順等を記載すること。	計測結果、写真等で確認した内容を追記するなど、説明資料に情報を追加した。例として、条線観察手順の説明資料を添付資料1に示す。(本資料でご説明)
48	令和5年 2月10日	第1113回 審査会合	破砕帯名や破砕帯分布図のような評価が変更となるものについては、他の観察結果等の変更とは識別した記載・整理とすること。	破砕部の連続性評価(破砕帯名や破砕帯分布)が変更となるものについては変更等の分類に「再評価」を追加して識別し、また、調査データの変更等とは別の一覧表として作成した。(本資料でご説明)
53	令和5年 3月17日	第1126回 審査会合	第1113回審査会合コメントを反映したうえで、追加の変更箇所の確認、それを踏まえたK断層の連続性評価に関する調査データのトレーサビリティの確認結果の審査資料の変更・修正を行い、次回審査会合ではその変更・修正を反映させた資料一式を作り込んで提出すること。	第1126回審査会合(令和5年3月17日)でご説明した不適合(薄片試料作製位置の一部誤り等)の是正処置を講じた結果の反映、第1126回審査会合(令和5年3月17日)までの関連コメントの反映、令和5年8月31日に提出した敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)に反映した最新活動面の認定方法の見直し、K断層の活動性に係る調査データの確認結果の反映等を行い、本資料をとりまとめた。(本資料でご説明)

3. トレーサビリティの確認結果

<K断層の連続性>

①K断層の連続性評価に関するデータのトレーサビリティ確認結果について(添付資料1)

- K断層の連続性評価に関するデータのトレーサビリティ確認結果を取りまとめた第1099回審査会合資料1-4で提示した内容について、記載の充実化を行った。
- 今回補正書に反映した最新活動面認定方法の見直し※によりさらに変更となる箇所については、添付資料3に取りまとめた。

※従来の肉眼観察(必要に応じてCT観察)による最新活動面の認定方法を見直し、美浜発電所、志賀原子力発電所の審査においても取り入れられている方法(CTによる破砕部観察、薄片の顕微鏡観察による確認等、マクロからミクロにかけての情報を収集して認定する方法)を採用した。

- K断層の南方延長への連続性評価に当たって、今回補正書において評価対象に追加した4孔のボーリング孔の破砕部データのうち、第833回審査会合でデータを提示している1孔(H24-B14-1孔)について、変更等を行った箇所を追加した(他の3孔については今回補正書で新規に提示)。

②薄片試料作製位置の一部誤り等の不適合(第1126回審査会合にて説明)の是正処置を講じた結果について(添付資料2)

- 薄片試料作製の一部位置誤り等の不適合の是正処置により、追加で変更等となる箇所について取りまとめた。なお、今回補正書に反映した最新活動面認定方法の見直しによりさらに変更となる箇所については、添付資料3に取りまとめた。

③最新活動面認定方法の見直しに伴う変更箇所について(添付資料3)

- 先行プラントの審査実績等を踏まえて、今回補正書に反映した最新活動面認定方法の見直し等によりさらに変更等が生じた箇所を取りまとめた。

<K断層の活動性>

④K断層の活動性評価に関するデータのトレーサビリティ確認結果について(添付資料4)

- 上記①及び②のプロセス改善及び是正処置を踏まえ活動性評価に関するデータのトレーサビリティ確認を行い、修正が必要となった箇所を取りまとめた。

各添付資料は、以下の構成としている。

＜共通＞

- 変更等の内容、理由等を取りまとめた一覧表
一覧表では、修正・変更・副次的変更・再評価（以下「変更等」という。）の分類※を合わせて示す。

※分類の定義

変更 : 従前提示していたデータから再観察により取得したデータに変えること。

副次的変更 : 関連データの変更等に伴い、従前提示していたデータが変わること。

修正 : 誤記、転記等の間違いを正すこと。

再評価 : 副次的変更のうち連続性評価（破砕帯分布の検討）を再度実施した結果に変わる箇所については再評価と分類する

- 同一破砕部で複数の副次的変更等がある場合の概要資料
同一破砕部で複数の副次的変更等がある場合については、副次的変更等の全体像と前後比較資料を補足する概要資料を、前後比較資料の前に示す。
- 変更等の前後比較資料
前後比較の「従前」の資料は、K断層の連続性に係る調査データについては第833回審査会合で提示した資料、K断層の活動性に係る調査データについては平成27年11月5日提出の敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書（2号発電用原子炉施設の変更）（以下「当初申請」という。）に記載の図を基本としている。
- 変更等の理由、エビデンスを示す説明資料
変更、副次的変更の場合は、変更理由、そのエビデンスを示す説明資料を付ける。
- 性状一覧表及び薄片観察結果について、補正書作成に伴い様式を変更している。次頁以降に様式の変更箇所を示す。

＜添付資料1＞

- 作業手順の説明資料
調査データの変更等に係るプロセスを明確にするため、調査データのトレーサビリティの確保のための作業手順等を変更等の一覧表の前に示す。

性状一覧表の様式変更について

性状一覧表の記載項目について、説明性向上のため以下の変更を行った。なお、本頁に記載する項目に関する変更については、変更、修正等に関する個々の頁には記載しない。

- ①断層岩区分について、肉眼観察による評価、薄片観察による評価、総合評価を記載することとした。
- ②最新活動面の「平滑さ」については、破碎帯評価に用いない性状であるため欄を削除した。
- ③断層ガウジを伴わないと評価した破碎部についても最新活動面を示す矢印を記載することとした。
- ④断層角礫を伴う破碎部については、断層角礫の範囲を示すカラーバーを記載することとした。

第833回審査会合 (R2. 2. 7) での様式

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-188頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(紫太枠)

15.非モデル化破碎帯 性状一覧表(16/19)

所定以上の番号	地質区分	破砕帯範囲 上端深さ(m) 下端深さ(m)	走向	傾斜	破砕帯幅 (mm)	断層ガウジ			最新活動面			方位センシ 北西	写真
						有	無	不明	有	無	不明		
①	H27-B-1 (破砕45°)	34.54 34.59	N25E	40N	5.0	-	-	-	30L	左	34		
②	H27-B-1 (破砕42°)	42.41 42.49	N25W	30NE	5.8	1.5	無	-	45L	左	42		
③	H27-B-1 (破砕45°)	44.24 44.33	N1E	80N	20.9	0.2	無	-	0	左	44		
④	H27-B-1 (破砕45°)	44.93 44.93	N5	80E	15.0	-	-	-	30L	左	44		
⑤	H27-B-1 (破砕45°)	45.30 45.30	N43E	70SE	1.5	-	-	-	40L	右	45		
⑥	H27-B-1 (破砕45°)	46.12 46.17	N14E	70N	4.1	1.0	無	-	22L	-	46		
⑦	H27-B-1 (破砕45°)	47.40 47.51	N21E	34E	5.6	0.2	無	-	30R	右	47		

凡例
 : 最新活動面
 : 破砕帯
 : 断層ガウジ
 : 断層角礫
 : 粘土の賦存物が認められる箇所
 *1. 濃淡
 *2. 誤読

【破砕帯】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-188

新様式

地質区分	破砕帯範囲 上端深さ(m) 下端深さ(m)	走向	傾斜	破砕帯幅 (mm)	断層ガウジ			最新活動面			方位センシ 北西	写真	
					有	無	不明	有	無	不明			
H27-B-1 (破砕45°)	① 34.54 34.59	N25E	40N	5.0	有	無	無	-	-	30L	左	34	
H27-B-1 (破砕42°)	② 42.41 42.49	N25W	30N	6.8	有	有	有	1.5	無	45L	左	42	
H27-B-1 (破砕42°)	③ 44.24 44.33	N1E	80N	20.9	有	有	有	0.2	無	0	左	44	
H27-B-1 (破砕45°)	④ 44.93 44.93	N5	80E	15.0	有	無	無	-	-	30L	左	44	
H27-B-1 (破砕45°)	⑤ 45.30 45.30	N43E	70SE	1.5	有	無	無	-	-	40L	右	45	
H27-B-1 (破砕45°)	⑥ 46.12 46.17	N14E	70N	4.1	有	無	無	-	-	22L	-	46	
H27-B-1 (破砕45°)	⑦ 47.40 47.51	N21E	34E	5.6	有	有	有	0.2	無	30R	右	47	

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 産出しない成分については「-」を記載(固成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外): データを取得していない箇所

凡例
 : 最新活動面
 : 破砕帯
 : 断層ガウジ
 : 断層角礫
 カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す

第7.4.4.413図 (1) 破砕部性状一覧 (H27-B-1)

6-7-1589

余白

添付資料 1

- ① K断層の連続性評価に関するデータのトレーサビリティ確認結果について

- K断層の連続性評価に係る調査データについてトレーサビリティの確認をした結果、データが変更等となる箇所(173箇所(添付資料2以降との重複箇所を除く箇所数))をとりまとめた。なお、変更等の一覧表のNo.は第1099回審査会合資料1-4のNo.を踏襲し、見直しとなった箇所を枝番や追加No.としている。
- 調査データのトレーサビリティの確認作業については、記録の確認だけでなく必要に応じ再観察を行っている。具体的な手順を次頁以降に記載する。なお、次頁以降に記載する手順は、今回補正書に反映した最新活動面の認定方法の見直し等を反映している。

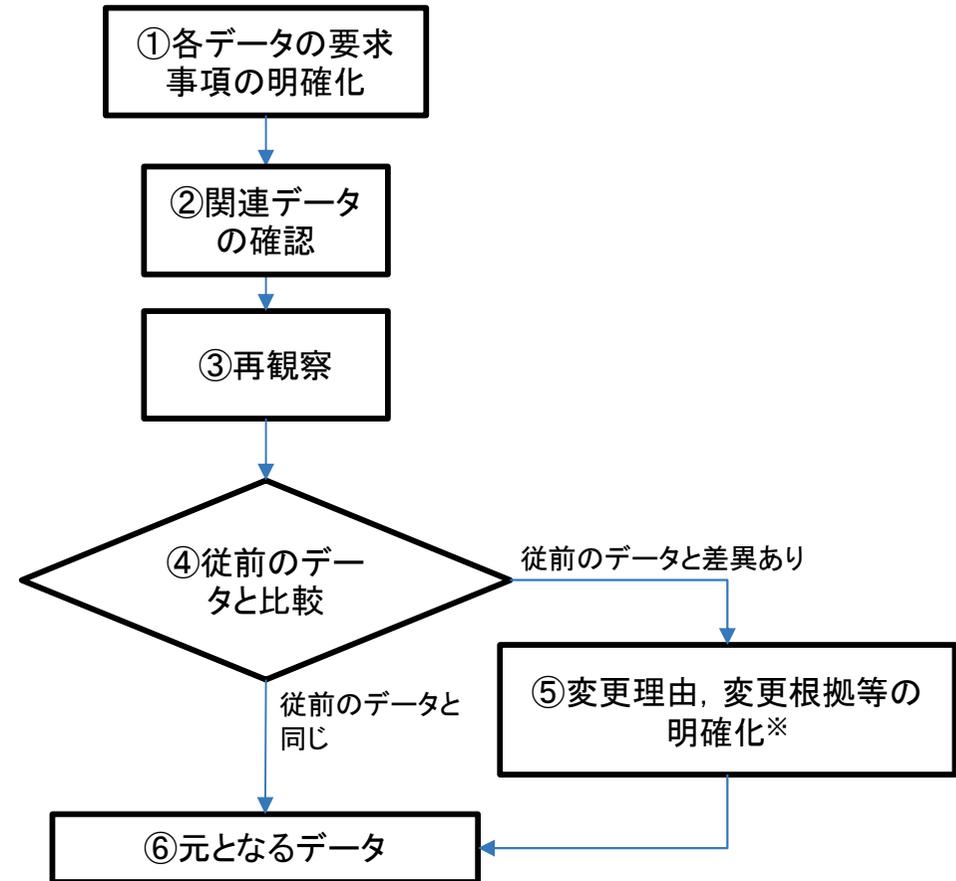
調査データのトレーサビリティの確保のための確認の作業手順(1)

(最新活動面, 走向・傾斜, 条線, 破碎幅, 断層ガウジ・断層角礫の幅, 最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造)

■ 作業手順の概要

第833回審査会合までに行ったデータ採取については, 一部の調査データについて数値等のみ記載することとしており, 個別の観察記録を作成していなかったことから, 再観察を含む以下の手順により調査データのトレーサビリティを確保した。

- ① 各データの要求事項(手順, 関連データの有無等)を明確にする。
- ② 各データの関連データを確認する。
- ③ ①の作業手順に沿って再観察を行い記録を作成する。
- ④ 再観察記録と従前のデータ(第833回審査会合等で提示したデータ)を比較し差異の有無を確認する。
- ⑤ 差異がある場合, 今回のデータへの変更理由, 変更根拠等を明確にする。
※: 従前のデータから変更, 修正等をする場合は, 変更管理及び不適合管理を行う。
- ⑥ 元となるデータとする。



■ 再観察方法

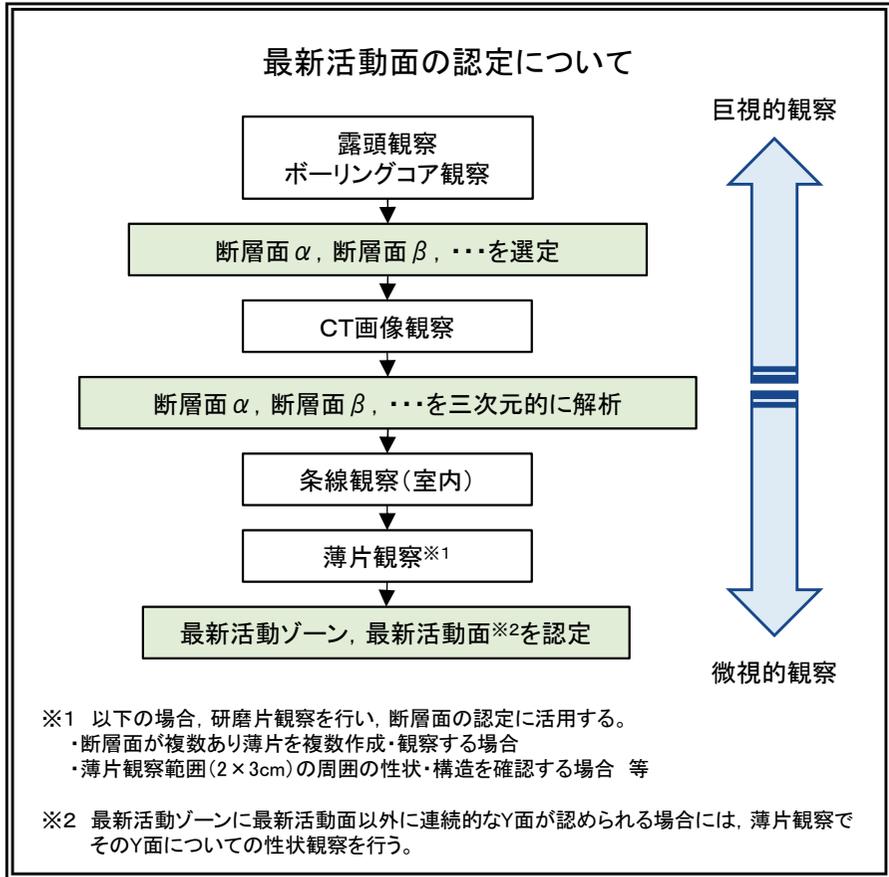
項目	再観察方法 (第1126回審査会合まで)	再観察方法 (今回補正書)
最新活動面	<ul style="list-style-type: none"> ボーリングコア又はコア写真を再観察し最新活動面の位置を認定し、深度を計測する。 ボーリングコアのみで最新活動面を認定できない場合は、ボーリングコアのCT画像を用いて認定を行う。 	破碎部観察、薄片の顕微鏡観察による確認等、マクロからミクロにかけての情報を収集して認定する。 (詳細については、添1-6頁参照)。
走向・傾斜	<ul style="list-style-type: none"> 既存のボアホールテレビ孔壁画像(以降BHTV画像)における不連続面のトレースが適切であることを確認するとともに、破碎部の最新活動面における走向・傾斜を確認する。 BHTV画像で走向・傾斜を計測できない場合における、取得方法は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> コア箱に収められている1m毎のコアの中で似た姿勢の割れ目や破碎部の走向・傾斜の値を使用する。 BHTV画像で走向・傾斜が測定されている割れ目や破碎部のボーリングコアにおける姿勢から最新活動面の姿勢を復元して走向・傾斜の値を得る。 補間用のボーリング、周囲の露頭、トレンチ・ピット、試掘坑などの最新活動面と対応する破碎部確認点の走向・傾斜の値を使用する。 周囲に参考にできる走向・傾斜の確認点がない場合、ボーリング孔周辺を通る破碎帯の代表的な姿勢を使用する。 	同左
条線	<ul style="list-style-type: none"> 従前提示しているデータ採取時の写真等記録がある場合は、最新活動面で観察していることを残試料等で確認する。 従前提示しているデータ採取時の写真等がない場合は、最新活動面における条線の再観察を行い、従前提示しているデータが適切であることを確認する。 斜めボーリングの場合は、観察した条線の角度を基にボーリング孔の掘進方向、掘進角度、破碎部の走向・傾斜を用いて真の条線方向に換算する。 	同左

■ 再観察方法

項目	再観察方法 (第1126回審査会合まで)	再観察方法 (今回補正書)
破砕幅	ボーリングコア又はコア写真を再観察し破砕部の幅を計測する。	同左
断層ガウジ・断層角礫の幅	肉眼観察による断層岩区分において、断層ガウジ・断層角礫と評価した破砕部について、ボーリングコア又はコア写真を再観察し断層ガウジ・断層角礫の幅を計測する。	同左
最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造	肉眼観察による断層岩区分において、断層ガウジと評価した破砕部について、ボーリングコア又はコア写真を再観察し最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造の有無を判断する。	同左

破砕部の最新活動面の認定方法(今回補正書第7.4.4.34図)

- 最新活動面の認定は、露頭やボーリングコアの肉眼観察、CT画像観察、薄片観察等に基づき、巨視的観察から微視的観察にかけて順に行った。



	最新活動面認定にあたっての判断指標
露頭観察 ボーリングコア観察	<ul style="list-style-type: none"> 他の構造に切られていない 細粒化が進んだゾーン 直線性・連続性が相対的に富む
CT画像観察	<ul style="list-style-type: none"> 三次元的に他の構造に切られていない CT値(密度)の相対的に小さいゾーン 三次元的に直線性・連続性が相対的に富む
薄片観察	<ul style="list-style-type: none"> 他の構造に切られていない 分帯し、最も細粒化が進んだゾーン(最新活動ゾーン)を伴う面 直線性・連続性が相対的に富む面

- * 研磨片観察
- 他の構造に切られていない
 - 細粒化が進んだゾーン
 - 直線性・連続性が相対的に富む

条線観察手順の説明例(1/2)

審査会合コメントNo.47への対応

断層面における条線観察については、以下の手順で実施している。

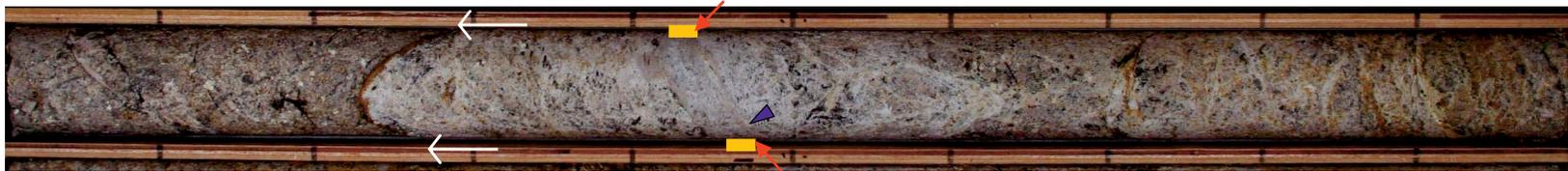
- ①ボーリングコアの断層面から条線を観察し、短軸方向からの角度を計測する。
 - ②ボーリングの掘進方向、傾斜及び断層面の走向・傾斜を用いて計測値を補正し、条線方向を取得する。
- H24-E-2孔 深度13.46mの断層面における条線方向の取得を例に詳細を以下に示す。

条線観察の例(K断層 H24-E-2孔 深度13.46m) (1/2)

①H24-E-2孔 深度13.46mのK断層の断層面において条線観察を行い角度を計測したところ、断層面の短軸を基準に73° R(深度が浅い方からの角度に換算)であった。

コア写真

13

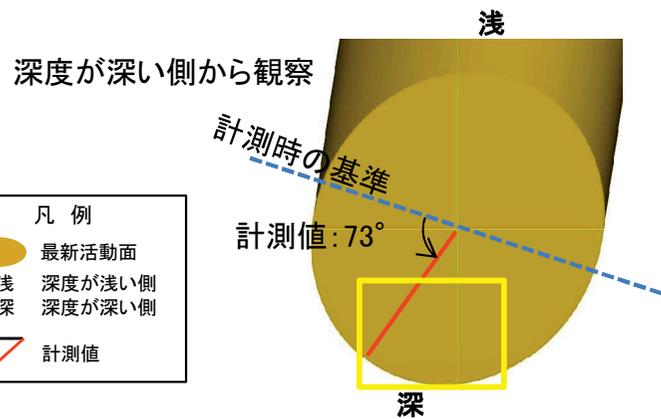


14

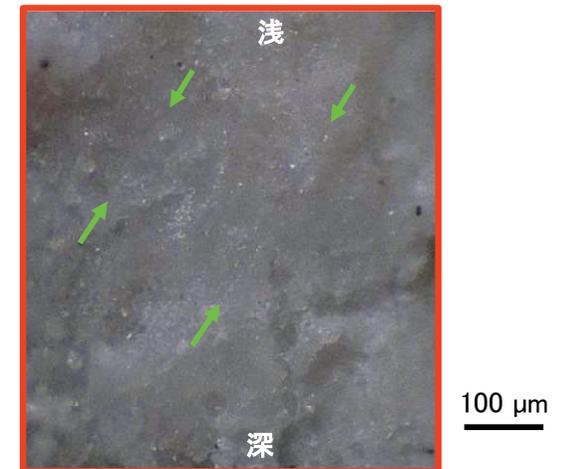
凡例

- 条線観察位置 (purple arrow)
- 断層ガウジ (yellow arrow)
- 破砕部範囲*1 (white double-headed arrow)
- 最新活動面 (red arrow)

*1: 写真上は白色で記載



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

凡例

- 条線方向 (green arrows)

図1 断層面における条線の観察結果

条線観察の説明例(K断層 H24-E-2孔 深度13.46m) (2/2)

審査会合コメントNo.47への対応

H24-E-2孔は掘進方向N87.4° E, 傾斜65° で掘削されたボーリングである。深度13.46mのK断層の断層面の走向・傾斜は, N33° W60° SWであり, ボーリングと断層面の平面的な位置関係は図2のようになる。断層面は南西傾斜であることから, 南西側が上盤, 北東側が下盤となる。
 上記をボーリング孔沿いの断面図で示したものが図3である。前頁で記載した条線観察は, ボーリングの深度が深い側から断層面を観察しているため, 下盤側から上盤側の条線を観察していることになる。
 一方で, 前頁の条線はボーリングコアにおける断層面の基準(短軸方向)からの角度であり, 水平面(走向方向)からの角度ではないため補正を行う必要がある。補正には, ボーリングの掘進方向, 傾斜及び最新活動面の走向・傾斜を用いる。
 計測した条線方向(73° R)を補正し真の条線53° Rを得た(図5参照)。

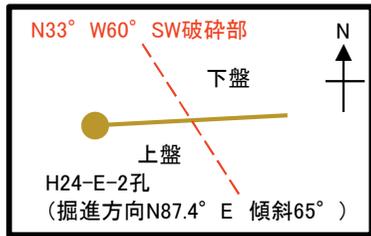


図2 H24-E-2孔位置平面図(模式図)

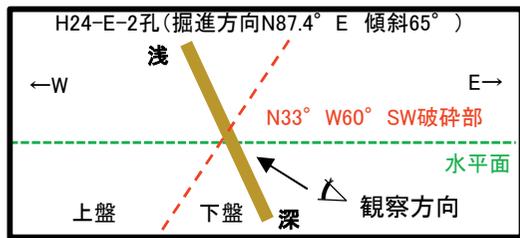


図3 H24-E-2孔を通る断面図(模式図)

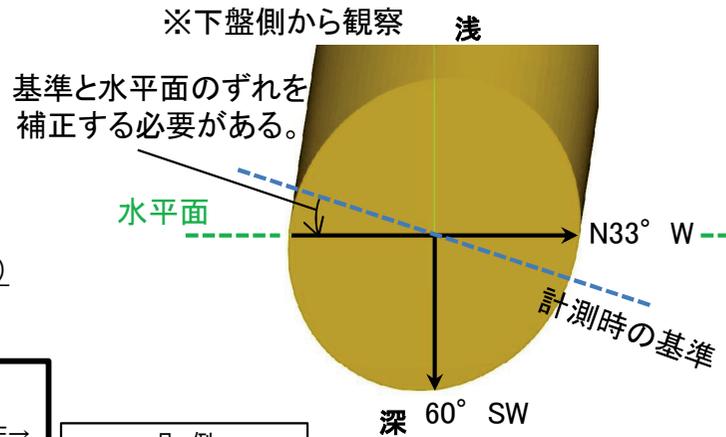


図4 断層面の走向・傾斜と計測時の基準との関係

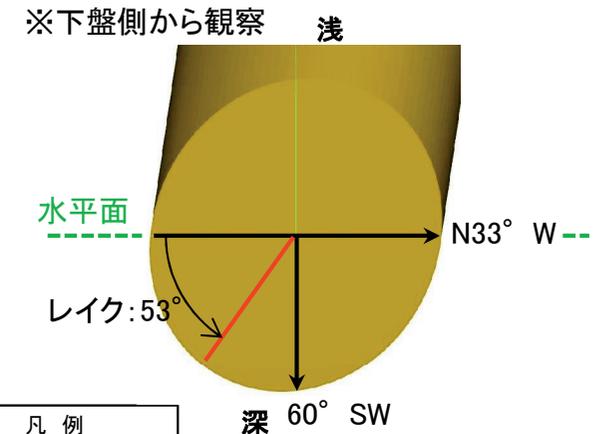


図5 補正後の条線の模式図

凡例
 ● 最新活動面
 浅 深度が浅い側
 深 深度が深い側

凡例
 ● 最新活動面
 浅 深度が浅い側
 深 深度が深い側
 ↓ レイク

※図3で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

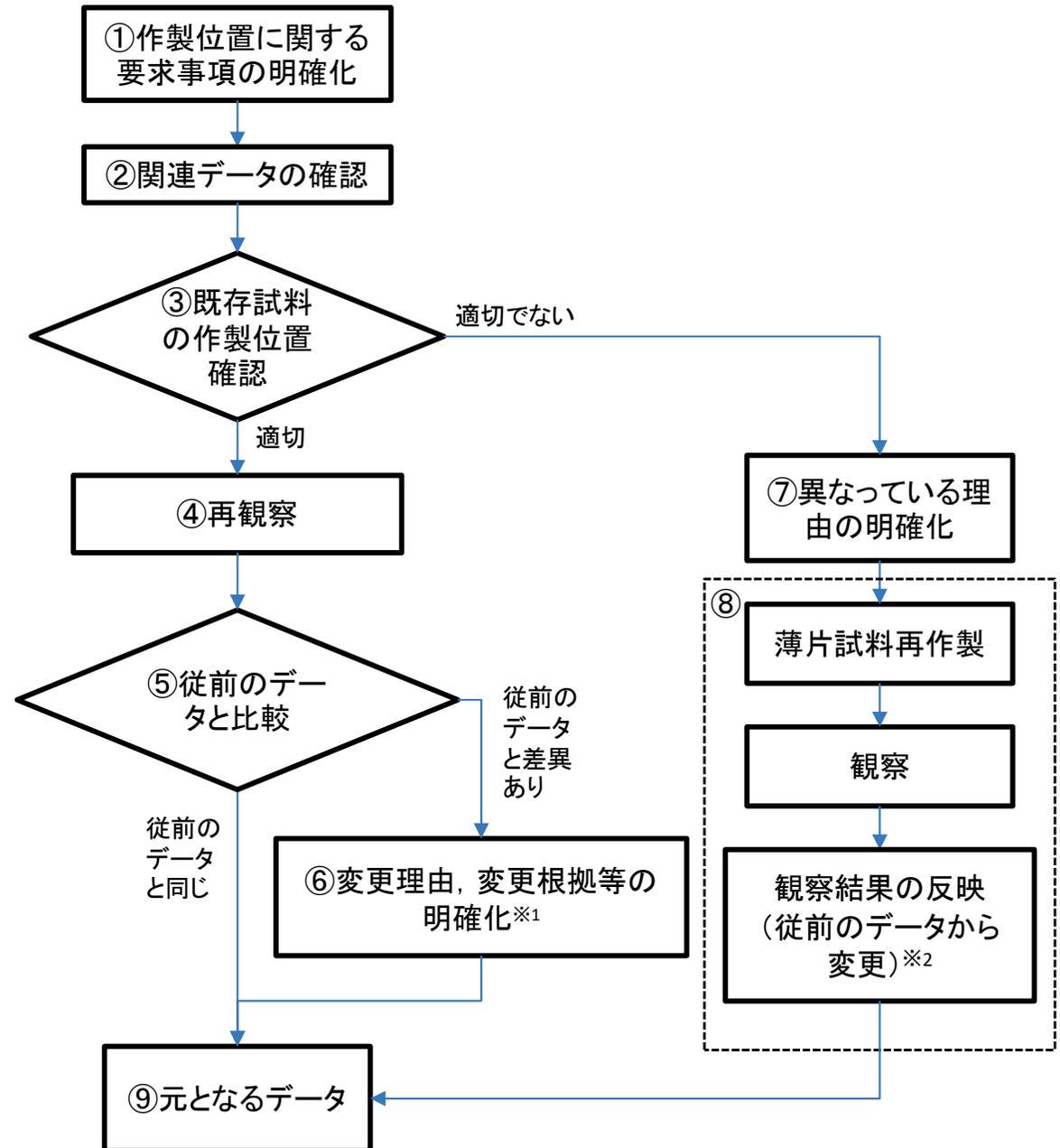
調査データのトレーサビリティの確保のための確認の作業手順(2) (薄片観察)

■ 作業手順の概要

薄片試料については、既存の薄片試料の作製位置が適切か確認を行ったうえで再観察を行う。薄片試料に関する作業フローは右のとおりであり、詳細を以下に示す。

- ① 薄片試料に関する要求事項(手順, 作製位置の条件, 関連データ等)を明確にする。
- ② 薄片試料作製に用いる関連データ(最新活動面の深度, 走向・傾斜, 条線)を確認する。
- ③ 既存薄片試料が適切に作製されているか以下の項目を確認する。
 - ・最新活動面を含むように, 断層面に直交方向かつ条線方向に平行方向に作製されているか。
 - ・作製した薄片試料に記載しているX方向, Z方向は正しいか。
- ④ 適切に作製されている場合は薄片試料の再観察を行い, 既往の記録の妥当性を確認する。
- ⑤ 再観察で取得したデータ(複合面構造の観察結果, 変位センス)と従前のデータを比較し差異の有無を確認する。
- ⑥ 差異がある場合, 再観察で取得したデータへの変更理由, 変更根拠等を明確にする。※1: 従前のデータから変更, 修正等をする場合は, 変更管理及び不適合管理を行う。
- ⑦ 作製位置が適切でない場合, その理由を明確にする。
- ⑧ 再作製した薄片試料の観察内容を反映し, 従前のデータから変更する。※2: 変更管理及び不適合管理を行う。
- ⑨ 元となるデータとする。

参考として, 作製手順を次頁に示す。



(参考) 薄片試料の作製について

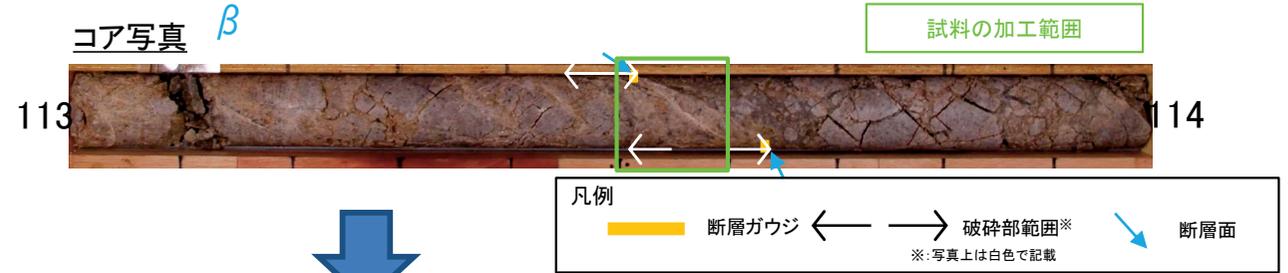
・薄片試料観察に当たっては、以下の作製手順に基づき、観察箇所を適切に選定し、試料切断から審査資料作成に至るまで、薄片試料作製方向が整合していることを確認する。

・観察対象の断層面を含むように、断層面に直交方向かつ条線方向に平行方向に試料を切断する。

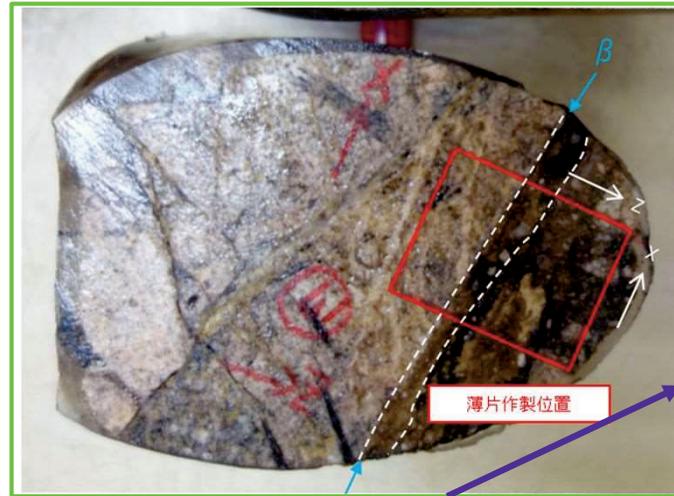
・切断した試料に、条線方向をX（下向きを正）、断層面の法線方向をZ（上盤側を正）として方向を記入する。
 ・記入した薄片試料作製方向について、走向・傾斜、ボーリングの掘進方向から正しいことを確認する。
 ・薄片試料は、肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲を含むように作製する。

・作製した薄片試料にも薄片試料作製方向を示すZ方向、X方向を記入し、切断した試料に示した方向と合っていることを確認する。

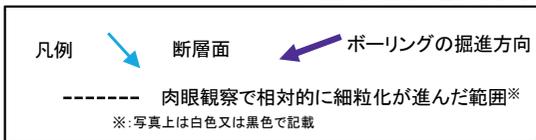
・薄片観察結果として資料化した際に、薄片試料作製方向が資料化の途中で誤っていないことを確認する。



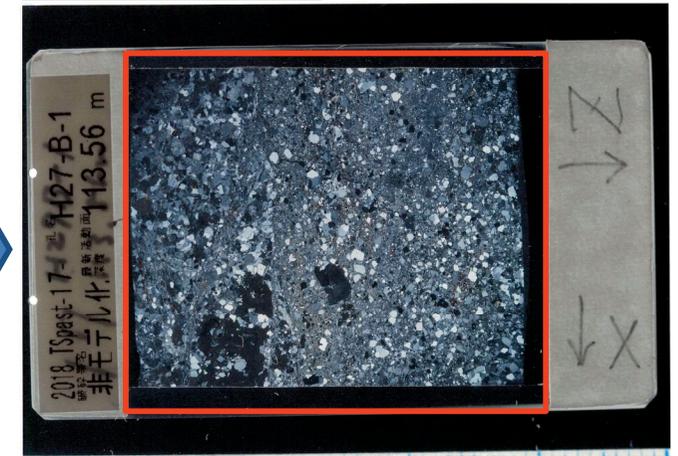
薄片作製位置の研磨片写真



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)



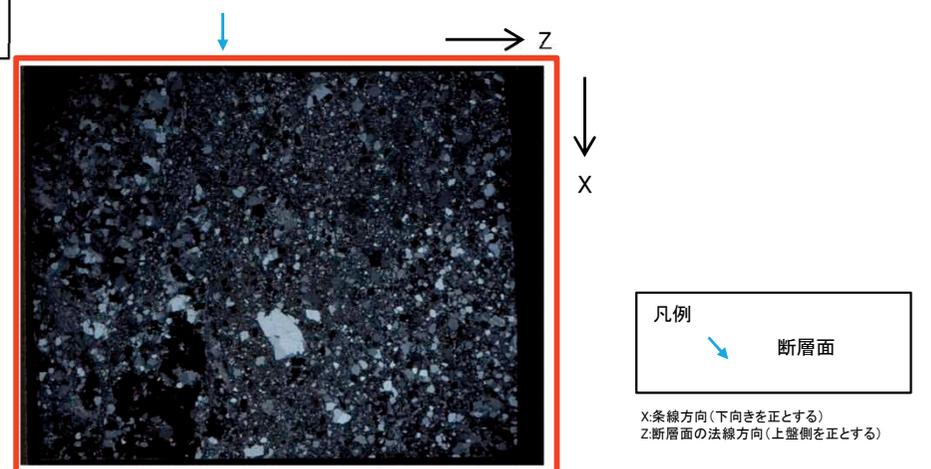
薄片試料(直交ニコル)



研磨面(左写真赤枠)をプレパラートに接着するため、研磨片と薄片試料のX方向は裏返しの関係になる。

X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

切断した試料の写真と薄片におけるそれぞれの組織の分布を対比し、切断した試料に記載した方向と薄片に記載した方向が整合していることを確認する。



薄片全景写真(直交ニコル)

■ 再観察方法

項目	再観察方法 (第1126回審査会合まで)	再観察方法 (今回補正書)
変位センス	<ul style="list-style-type: none"> • 薄片試料の作製位置が適切であることを確認する。 • 適切に作製されたことを確認した最新活動面を含む薄片試料を用いて、複合面構造を再観察し、最新活動ゾーンにおける変位センスを認定する。 • 薄片試料を再作製した場合は、再作製した薄片試料の複合面構造を観察し、最新活動ゾーンにおける変位センスを認定する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 同左

作業手順(3)
(破碎帯名(連続性評価))

■ 作業手順(評価方法)

項目	作業手順(評価方法) (第1126回審査会合まで)	作業手順(評価方法) (今回補正書)
<p style="text-align: center;">破碎帯名 (連続性評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 破碎部のデータに変更がない場合は、第833回審査会合で示している評価結果を用いる。 • 破碎部のデータを再観察等により変更した場合は、他の破碎部と破碎部性状を比較することで、その類似性から、連続性の評価を行う。敦賀発電所2号炉における破碎帯の連続性評価基準を以下に示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 起点とする破碎部の走向・傾斜から±20° の範囲(破碎帯の連続性検討範囲)の破碎部を抽出する。 2. 抽出された破碎部のうち、起点とする破碎部との走向・傾斜の差が±20° 以内の破碎部を選定する。 3. 選定した破碎部のうち、起点の破碎部の性状と類似(断層ガウジ・断層角礫の有無／明瞭なせん断構造・変形構造の有無／条線方向もしくは変位センスの整合性)する破碎部を起点の破碎部と連続させる。詳細は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① 断層ガウジ・断層角礫の有無及び明瞭なせん断構造・変形構造の有無が類似するか。 ② 類似する場合、条線方向もしくは変位センスが類似するか。 ③ 類似する破碎部が複数ある場合、以下のいずれかの特徴を有していれば連続しないと判断する。 <ol style="list-style-type: none"> a. 起点破碎部との間に他の破碎帯が横断しているもの。 b. 起点破碎部の破碎幅と1オーダー以上異なるもの。 c. 破碎部の構造的特徴(カタクレーサイト中の構造の特徴)や周辺岩盤の破碎の影響の程度が起点破碎部と類似していないもの。 d. 熱水変質等の規模や特徴が起点破碎部と類似していないもの。 • 連続性評価は、重要施設を設置する地盤に破碎帯の露頭があり連続することが確認されているもの及び重要施設近傍に分布する破碎幅の広い破碎部から順に評価する。 • 破碎帯と評価したものについては識別のための名称を付ける。 	<p>破碎帯の連続性評価方法について、類似する破碎部が複数ある場合の基準を全破碎部に適用していたことから、記載を適正化した。(左記3. ③を下記4. として記載を適正化)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起点とする破碎部の走向・傾斜から±20° の範囲(破碎帯の連続性検討範囲)の破碎部を抽出する。 2. 抽出された破碎部のうち、起点とする破碎部との走向・傾斜の差が±20° 以内の破碎部を選定する。 3. 選定した破碎部のうち、起点の破碎部の性状と類似(断層ガウジ・断層角礫の有無／明瞭なせん断構造・変形構造の有無／条線方向もしくは変位センスの整合性)する破碎部を抽出する。 4. 選定した破碎部のうち、最新活動以前に形成された破碎部の性状等(下記参照)が類似している破碎部を起点の破碎部と連続させる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 起点の破碎部の破碎幅のオーダーが同じであること ② 破碎部の構造的特徴や周辺岩盤の破碎の影響の程度が起点の破碎部と類似していること ③ 熱水変質等の規模や特徴が起点の破碎部と類似していること ④ 起点の破碎部との間に他の破碎帯が横断していないこと

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
1	H24-A-11	10.20	12.76		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	破砕部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 30
2	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	最新活動面 13.42m	最新活動面 13.46m	トレーサビリティ確保のための作業手順に従ってコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度13.46mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に13.42mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「13.42m」としていた根拠はトレースできない。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 31
3	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	走向・傾斜 N21W60W	走向・傾斜 N33W60SW	最新活動面の変更に伴い, 深度13.46mのせん断面における走向・傾斜であるN33W60SWとした。 従前は, 深度13.42mに相当する不連続面のトレース線を本破砕部の走向・傾斜としていた。	副次的変更 (No.2に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添1 - 31
4	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	条線 60R	条線 53R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN33W60SWとなったため, 条線方向は53Rとなる。 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない※。 ※当時の条線観察時に当初の最新活動面から変更(13.42m→13.46m)したが, 性状一覧表等の最新活動面の記載及び走向・傾斜へ適切に反映がされていなかったと推定される。	副次的変更 (No.3に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 31
5	H24-E-2	13.23	15.82		●	薄片試料を再作製して観察		明確にした手順をもとに, 最新活動面と直交する方向で薄片試料を再作製して※観察した結果を記載。 ※従前作製した薄片試料は, 最新活動面と直交する方向から60°程度斜交した方向で作製していることが確認された為。 なお, 再作製した薄片観察に基づく変位センス(右ずれを伴う逆断層), 断層岩区分の評価(断層ガウジ)は従前作製の薄片試料と同じであったことから, 連続性評価に用いるデータに変更はない。	変更	薄片観察結果	添1 - 31
6	H24-E-1	8.41	9.70	●		破砕部範囲を示す矢印の位置の修正		破砕部上端の深度は8.41mであるが, コア写真上に位置を示す際に当該深度でない箇所に矢印をつけていたため, 修正した。	修正	破砕幅計測結果	添1 - 41
7	H24-H-6-1	9.58	14.36	●	●	走向・傾斜 N33W38W	走向・傾斜 NS64W	明確にした手順に従い, BHTV画像により, 最新活動面の走向・傾斜をNS64Wとした。 従前は, 性状一覧表にN33W38Wと記載していた。BHTVとコアとを対比する際に, トレース線とそれに対応する走向・傾斜の引き出し線の位置関係を見間違えたことで対比すべきトレース線の走向・傾斜を誤り, 10.21mの褐色粘土脈の走向・傾斜を採用してしまった。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 42
8	H24-H-6-1	9.58	14.36	●	●	条線 90	条線 61R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がNS64Wとなったため, 条線方向は61Rとなる。 なお, 最新活動面である条線観察位置(深度9.58m)において採取した試料を用いて, 明確にした手順に基づいて条線方向を確認し, 従前の観察は正しいことを確認している。	副次的変更 (No.7に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 42
9	H24-H-14	4.93	7.81	●		断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジの幅 3.5cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を3.5cmとした。 ・コアの再観察の結果, 上端側からにぶい橙色と明黄褐色の粘土状部を繰り返し, 断層ガウジの幅としては3.5cmである。 従前は, 性状一覧表に断層ガウジの幅を1.0cmと記載していたが, コア観察カードに断層ガウジ内の縞状(各色調)の帯の幅(5~10mm)の記載があり, その最大値を誤って記載したと推定される。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 49

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
10	H24-H-14	4.93	7.81	●		断層ガウジを示すカラーバーの修正		断層ガウジの幅の変更(1.0cm→3.5cm)に伴い, カラーバーの範囲を変更する。	副次的変更 (No.9に伴うもの)	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 49
11	H24-B'-1	7.50	10.93		●	薄片観察資料のブロック サンプル写真のY方向	X方向が正しい旨の注釈 の追加	薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片に記載しているY方向をX方向への修正が必要であることが確認された。 なお, 研磨片自体の記載修正は薄片試料作製に伴いできない状態であるため, 薄片観察資料Y方向はX方向の誤りである旨の注釈を記載した。	修正	薄片観察結果	添1 - 53
12	H24-D1-1	49.20	49.91	●	●	最新活動面の深度 49.84m	最新活動面の深度 49.82m	トレーサビリティ確保のための作業手順に従ってコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度49.82mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に49.84mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「49.84m」としていた根拠はトレースできない。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 54
13	H24-D1-1	49.20	49.91		●	最新活動面位置 ガウジの右	最新活動面位置 ガウジの左	最新活動面の深度の変更に伴い, 薄片試料全景写真の最新活動面を示す矢印の位置を変更し, 細粒部の上端側である断層ガウジの左側とした。 なお, 今回の薄片観察資料には, 様式変更により全景写真に最新活動面を示す矢印を記載していない。 また, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	副次的変更 (No.12に伴うもの)	最新活動面確認結果	添1 - 54
14	H24-D1-1	49.20	49.91		●	全景写真の記載 花崗岩	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前は花崗岩としていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 54
15	H24-D1-1	53.77	54.54	●	●	最新活動面の深度 53.77m	最新活動面の深度 53.80m	トレーサビリティ確保のための作業手順に従ってコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度53.80mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に53.77mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「53.77m」としていた根拠はトレースできない。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 59
16	H24-D1-1	53.77	54.54	●	●	走向・傾斜 N20E77E	走向・傾斜 N22E75E	最新活動面の変更に伴い, 深度53.80mの走向・傾斜であるN22E75Eとした。 従前は, 深度53.78mに相当する不連続面のトレース線を本破砕部の走向・傾斜としていた。	副次的変更 (No.15に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添1 - 59
17	H24-D1-1	53.77	54.54	●		断層ガウジの幅 1.5cm	断層ガウジの幅 1.0cm	明確にした手順に従いコアを再観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を1.0cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度53.77~53.78m間は石英粒や岩片主体でカタクレーサイトと区分。一方, 深度53.78~53.80m粘土主体であり断層ガウジに区分した。 ・断層ガウジの範囲を変更したため, それに該当する真幅を測定し, 1.0cmとした。 従前は, コア観察カードには深度53.77~53.80m間を粘土状破砕部(Hc-2)として, 幅1.5cmと記載していた。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 59
18	H24-D1-1	53.77	54.54		●	研磨片へのX, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, ともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。 従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 59

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
19	H24-D1-1	58.96	59.30	●		明瞭なせん断構造・変形構造 無	明瞭なせん断構造・変形構造 有	明確にした手順に従い再観察した結果, 以下の理由から明瞭なせん断構造・変形構造の有無を「有」とした。 ・コアの再観察の結果, 最新活動面に沿った断層ガウジに灰赤色と灰白色の層状構造が認められることから, 明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とすることが適切。 従前は明瞭なせん断構造・変形構造を「無」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「無」と記載した根拠はトレースできなかった。	変更	明瞭なせん断構造・変形構造の 確認結果	添1 - 66
20	H24-D1-1	60.12	60.15		●	最新活動面の矢印の位置と 薄片作製位置を示す赤枠の修正		最新活動面を示す矢印については, 最新活動面認定方法の見直しに伴い, 1099回審査会合資料で示していた箇所から変更している。詳細については, 添付資料3参照。	修正	薄片観察結果	添3 - 36
21	H24-D1-1	68.84	69.00		●	全景写真の記載 花崗岩	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前は花崗岩としていた。 なお, 最新活動面認定方法の見直しに伴い薄片試料を再作製した結果, 薄片試料の範囲に健岩部は含まれていない。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 70
22	H24-D1-1	89.91	89.95	●	●	走向・傾斜 N22W80E	走向・傾斜 N23W86E	明確にした手順に従い, BHTV画像により再確認し, 最新活動面の走向・傾斜をN23W86Eとした。 従前は, 不連続面(深度89.91mの破砕部上端面)の走向・傾斜を採用してしまった。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 71
23	H24-D1-1	89.91	89.95	●	●	条線 35L	条線 33L	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN23W86Eとなったため, 条線方向は33Lとなる。 なお, 最新活動面である条線観察位置(深度89.95m)において採取した試料を用いて, 明確にした手順に基づいて条線方向を確認し, 従前の観察は正しいことを確認している。	副次的変更 (No.22に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 71
24	H24-D1-1	89.91	89.95	●		断層ガウジを示すカラーバー及び 断層角礫を示すカラーバーの修正 (断層角礫のカラーバーについては令和3年7月16日 提出資料の修正)		性状一覧表のコア写真に断層ガウジ(令和3年7月16日提出資料では断層角礫の範囲を示すカラーバーを追加)を記載しているが, カラーバーの長さが断層ガウジと断層角礫で逆になっていたため修正した。	修正	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	添1 - 71
25	H24-D1-1	90.26	90.84	●		断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.2cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.2cmとした。 ・コアの再観察の結果, 断層ガウジの幅としては0.2cmである。 従前は, 性状一覧表に断層ガウジの幅を0.5cmと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	添1 - 78
26	H24-D1-1	91.26	91.52		●	薄片試料を再作製して観察		明確にした手順をもとに, 最新活動面と直交する方向で薄片試料を再作製して観察した。 ※従前作製した薄片試料は, 最新活動面と直交する方向から45°程度斜交した方向で作製していることが確認された。 なお, 再作製した薄片観察に基づく変位センス(正断層センス)及び断層岩区分の評価(カタクレサイト)は, 従前作製の薄片試料と同じであったことから, 連続性評価に用いるデータに変更はない。	変更	薄片観察結果	添1 - 81
27	H24-D1-1	93.12	93.24		●	研磨片へのX, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, とともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。 従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 85

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破碎部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
28	H24-D1-1	93.12	93.24	●	●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破碎部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 85
29	H24-D1-1	99.68	99.71	●	●	断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 1.2cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を1.2cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度99.68~99.69m間は岩片を多く含む粘土混じり礫状部であるため, 変質したカタクレーサイトと判断した。 深度99.69~99.71m間は岩片を多く含むが, 連続性及び直線性が良い粘土状部であるため, 断層ガウジであると判断した。 ・上記で認定した断層ガウジの真幅を測定し断層ガウジの幅を1.2cmとした。 従前は, 岩片を多く含む粘土混じり礫状部の幅として, 幅0.8cmと記載していた。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 86
30	H24-D1-1	99.68	99.71	●	●	最新活動面の矢印の位置を修正する		明確にした手順に従いコアを再確認した結果, 細粒部を伴い最も直線的である99.70mのせん断面が最新活動面であることが確認されたため, 性状一覧表の最新活動面位置を示す赤矢印を99.70mの位置とした。 従前の性状一覧表には破碎部下端(99.71m)を最新活動面として赤矢印を記載しているが, 条線観察及び薄片資料作製が99.70mで行われていることから, 最新活動面深度の見直しの反映もれであると推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 86
31	H24-D1-1	99.68	99.71	●	●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破碎部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 86
32	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	最新活動面の深度 42.43m	最新活動面の深度 42.41m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 深度42.41mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 ※コアの肉眼観察では最新活動面の判断が難しく, CT画像を用いて, より直線的である深度42.41mが最新活動面であることを確認。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に42.43mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「42.43m」としていた根拠はトレースできない。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 91
33	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	条線 45L	条線 14R	明確にした手順により最新活動面の深度が42.41mとなり, 同一深度の条線方向は14Rとなる。 従前の45Lは最新活動面変更前の深度42.43mで取得したものである。	副次的変更 (No.32に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 91
34	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	走向・傾斜 N65W36NE	走向・傾斜 N65W36N	深度42.41mにおける走向・傾斜であるN65W36Nとした。	修正	走向・傾斜確認結果	添1 - 91
35-1	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	薄片試料を再作製して観察		最新活動面の変更に伴い, 最新活動面(深度42.41m)の薄片試料を再作製し, その観察結果に変更する。	副次的変更 (No.32に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 91
35-2	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	再作製した薄片試料の観察結果に基づいて, 「右ずれセンス」とした。 従前は, 変更前の最新活動面での観察結果として, 「右ずれ正断層センス」としていた。	副次的変更 (No.35-1に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 91
36	H27-B-1	44.24	44.53	●	●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	破碎部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 103
37	H27-B-1	46.12	46.17	●	●	最新活動面の矢印の位置 (46.17m)	最新活動面の矢印の位置 (46.16m)	明確にした手順に従いコアを再観察し, 深度46.16mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 ※コアの肉眼観察では最新活動面の判断が難しく, CT画像を用いて, より直線的である深度46.16mが最新活動面であることを確認。 従前は, 性状一覧表のコア写真の赤矢印の位置に46.17mと記載していたが, 走向・傾斜の取得及び条線観察は46.16mで行われていたことから, CT画像を利用した最新活動面の認定結果の反映もれと推定した。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 104

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破碎部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
38	H27-B-1	49.17	49.22		●	最新活動面の深度 49.20m	最新活動面の深度 49.17m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的である深度49.17mのせん断面を最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に49.20mと記載していたが, 走向・傾斜の取得, 条線観察, 薄片試料の作製については深度49.17mにて行われており, 最新活動面の見直し結果の反映もれと推定した。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 105
39	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	走向・傾斜 N15E82E	走向・傾斜 N27E43W	明確にした手順に従い, BHTV画像により, 最新活動面の走向・傾斜をN27E43Wとした。 従前は, 最新活動面ではない不連続面の走向・傾斜を採用してしまった。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 106
40	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	条線 10R	条線 72R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN27E43Wとなったため, 条線方向は72Rとなる。 なお, 最新活動面である条線観察位置(深度52.81m)において採取した試料を用いて, 明確にした手順に基づいて条線方向を確認し, 従前の観察は正しいことを確認している。	副次的変更 (No.39に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 106
41	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	左ずれセンス	逆断層センス	走向・傾斜の変更(N15E82E→N27E43W)にともない, 上盤と下盤が入替ること及び条線が高角度になる(10R→72R)ことより, 変位センスは「左ずれセンス」から「逆断層センス」となる。	副次的変更 (No.40に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 106
42	H27-B-1	53.17	53.22		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	破碎部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 114
43	H27-B-1	59.82	59.85	●	●	走向・傾斜 N26E80W	走向・傾斜 N20E75W	明確にした手順に従い, BHTV画像により, 最新活動面の走向・傾斜をN20E75Wとした。 従前は, 最新活動面ではない不連続面の走向・傾斜を採用してしまった。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 115
44	H27-B-1	69.70	69.73		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	破碎部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 119
45	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	走向・傾斜 N15E85W	走向・傾斜 N41W66W	最新活動面認定方法の見直しに伴い, 走向・傾斜がN15E85Wに変更した。詳細については添付資料3参照。	変更	走向・傾斜確認結果	添3 - 87
46	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	条線 70L	条線 52R	最新活動面認定方法の見直しに伴い, 走向・傾斜が変更となったため, 条線方向も変更した。詳細については添付資料3参照。	副次的変更 (No.45に伴うもの)	条線観察結果	添3 - 87
47	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	正断層センス	左ずれ正断層センス	最新活動面認定方法の見直しに伴い, 薄片試料を再作製しているが, 変位センスは左ずれ正断層センスであった。詳細については添付資料3参照。	副次的変更 (No.46に伴うもの)	薄片観察結果	添3 - 87
48	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	走向・傾斜 N34E87NW	走向・傾斜 N44E72E	明確にした手順に従い再確認した結果, 最新活動面の走向・傾斜をN44E72Eに変更した。 BHTV画像を確認した結果, 孔壁崩壊により最新活動面の走向・傾斜が取得できないことから, 最新活動面近傍の割れ目の走向・傾斜(N34E87NW)を用いて, その割れ目と最新活動面のコアにおける姿勢から 最新活動面の走向・傾斜をN44E72Eと推定した。 従前は最新活動面近傍の割れ目の走向・傾斜(N34E87NW)を最新活動面の走向・傾斜として代用していた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 120
49	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	条線 90	条線 88R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN44E72Eとなったため, 条線方向は88Rとなる。 なお, 最新活動面である条線観察位置(深度75.73m)において採取した試料を用いて, 明確にした手順に基づいて条線方向を確認し, 従前の観察は正しいことを確認している。	副次的変更 (No.48に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 120
50	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	逆断層センス	正断層センス	走向・傾斜(N34E87NW→N44E72E)が変更になることにより, 傾斜方向が西傾斜から東傾斜に変更となり, 上盤と下盤の関係が従前の評価と逆となるため, 変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる。	副次的変更 (No.49に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 120
51	H27-B-1	75.57	76.00	●		破碎帯名 非モデル化	破碎帯名 f-d1-1-11	K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	連続性評価結果	添1 - 335
52	H27-B-1	85.38	85.41		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破碎部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアプライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 131

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
53	H27-B-1	113.51	113.60	●	●	最新活動面の深度 113.56m	最新活動面の深度 113.60m	最新活動面の深度の記載を113.56mから113.60mに修正した。当該箇所はコアの肉眼観察では最新活動面が判断できないため, CT画像を利用して, より直線的である深度113.60mが最新活動面であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印, 薄片観察結果には深度113.56mと記載していたが, 走向・傾斜の取得及び条線観察は113.60mで行われており, CT画像を利用した最新活動面の認定結果の反映もれと推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 132
54	H27-B-1	113.51	113.60	●		断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジの幅 0.1cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.1cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度113.60mの最新活動面に分布する断層ガウジの幅は0.1cmであった。 従前は, 肉眼観察に基づく断層区分により断層ガウジと判断した箇所の幅ではなく, コア観察カードに記載のある深度113.56mの細粒部の幅1mmを誤って記載したものと推定した。 なお, 断層ガウジの幅は肉眼観察で断層ガウジと評価した箇所の計測結果であり, 本破砕部は第833回新差会合以降に実施した薄片観察結果を含めた断層区分の総合評価においてカタクレーサイトと評価したため, 性状一覧表では記載を「-」としている。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 132
55	H27-B-1	118.94	119.12		●	最新活動面の深度 119.10m	最新活動面の深度 119.12m	最新活動面の深度の記載を119.10mから119.12mに修正する。当該箇所は, コアの肉眼観察では最新活動面が判断できないため, CT画像を利用して, より直線的である深度119.12mが最新活動面であることを確認した。 従前は, CT画像で認定した深度「119.12m」をデータ集に反映し忘れていたため, 薄片観察結果には深度「119.10m」と誤って記載してしまった。 なお, 性状一覧表には, 従前提示したのから正しい位置に最新活動面を示す矢印が付いている。 また, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 136
56	H27-B-1	118.94	119.12		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 136
57	H27-B-1	139.82	139.88		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 137
58	H27-B-2	35.36	35.46		●	X, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, とともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。 従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 138
59	H27-B-2	35.36	35.46	●		最新活動面の矢印の位置を修正する		性状一覧表のコア写真において最新活動面を示す矢印位置をマンガン汚染部の下端から上端に修正する。 なお, 従前も, 新活動面を深度35.40m(マンガン汚染部の上端)と認定して, 走向・傾斜, 条線の取得及び薄片試料作製を行っており, それらのデータに変更はない。 また, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 139
60	H27-B-2	35.68	35.73		●	X, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, とともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。 従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 140

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
61	H27-B-2	35.68	35.73			薄片拡大写真の撮影位置を示す緑枠の修正		令和3年7月16日に提出した補足説明資料3の薄片観察結果において, 当該破砕部3/3枚目の全景写真に示している拡大写真位置が間違っていたことから修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 141
62-1	H27-B-2	35.92	35.95		●	Z方向の記載誤り		明確にした手順に従い確認した結果, 従前提示していた資料ではZ方向の記載が逆向きであることを確認したため, 正しい方向に変更した※。 ※資料上では研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のZ方向が正しくなるよう写真を反転させた。	変更	薄片観察結果	添1 - 142
62-2	H27-B-2	35.92	35.95	●	●	左ずれを伴う逆断層	右ずれを伴う正断層	No.62-1の変更に伴いZ方向が従前提示していたデータと逆向きになり, 上盤と下盤が入れ替わることから, 変位センスは右ずれを伴う正断層センスに変更となる。	副次的変更 (No.62-1に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 142
63	H27-B-2	48.08	48.12	●		断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.1cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.1cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度48.12mの最新活動面に分布する断層ガウジの幅は0.1cmであった。 従前は, 断層ガウジの幅を「0.5cm」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースでできなかった。 なお, 断層ガウジの幅は肉眼観察で断層ガウジと評価した箇所の計測結果であり, 本破砕部は第833回新差会合以降に実施した薄片観察結果を含めた断層岩区分の総合評価においてカタクレーサイトと評価したため, 性状一覧表では記載を「-」としている。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 148
64	H27-B-2	48.08	48.12		●	X, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, とともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。 従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 148
65	H27-B-2	60.26	60.69		●	最新活動面の深度 60.58m	最新活動面の深度 60.59m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度60.59mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に60.58mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「60.58m」としていた根拠はトレースできない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 152
66	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	走向・傾斜 N18E77W	走向・傾斜 N31E88SE	最新活動面の変更に伴い, 深度60.59mのせん断面における走向・傾斜であるN31E88SEとした。従前のデータ取得に用いたBHTV画像では, 深度60.59mのせん断面に該当するトレース線の記載がなかったことから, 再観察に伴いトレース線の追加を行ったうえで走向・傾斜を取得した。 従前は, データ取得時のBHTV画像において60.58mに相当する不連続面のトレース線を本破砕部の走向・傾斜としたと推定される。	副次的変更 (No.65に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添1 - 152
67	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	条線 60R	条線 75L	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN31E88SEとなったため, 条線方向は75Lとなる。 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度60.59m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。当時の条線観察時に当初の最新活動面から見直し(60.58m→60.59m)が行われたと推定される。	副次的変更 (No.66に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 152
68	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	右ずれ逆断層センス	正断層センス	走向・傾斜(N18E77W→N31E88SE), 条線方向(60R→75L)が変更になることにより, 条線方向が高角度に変更となるため, 変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる。 なお, 従前も薄片試料の作製は適切に実施されており, 条線観察時の最新活動面の見直し(60.58m→60.59m)が反映されていたと推定される。	副次的変更 (No.66, 67に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 152

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
69	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	走向・傾斜 N15E82W	走向・傾斜 N20E89E	最新活動面に対応する不連続面の走向・傾斜であるN20E89Eに修正する。BHTV画像の確認の結果, 従前は, 性状一覧表及び薄片観察結果に最新活動面でない不連続面の走向・傾斜「N15E82W」を記載していた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 161
70	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	条線 60L	条線 15L	最新活動面である条線観察位置(深度85.63m)において試料を採取し, 再観察した結果, 条線方向を60Lから15Lに変更した。 従前のデータと比較した結果, 従前のデータは最新活動面で観察できていなかったものと判断した。	変更	条線観察結果	添1 - 161
71-1	H27-B-2	85.58	85.76		●	薄片試料を再作製して観察		既存の薄片試料の作製位置を確認したところ, 最新活動面でない箇所で作製していたため, 薄片試料を再作製した観察結果に変更した。	変更	薄片観察結果	添1 - 161
71-2	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	既存の薄片試料の作製位置を確認したところ最新活動面でない箇所で作製していたため, 薄片試料を再作製した観察結果に変更した。 条線方向の変更(60L→15L)に伴い, 変位センスが右ずれ正断層センスから右ずれセンスに変更となる。	副次的変更 (No.70, 71-1に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 161
72	H27-B-2	88.38	88.43		●	最新活動面の深度 88.43m	最新活動面の深度 88.42m	最新活動面の深度の記載を88.43mから88.42mに修正する。当該箇所は, コアの肉眼観察では最新活動面が判断できないため, CT画像を利用して, より直線的である深度88.42mが最新活動面であることを確認した。 最新活動面については, 従前から, CT画像を用いて深度88.42mと認定し, 該当するせん断面で走向・傾斜の取得, 条線観察, 薄片試料の作製を行っていたが, 深度を薄片観察資料に記載する際に88.43mと誤って記載したものと推定される。 なお, 性状一覧表には正しい最新活動面である深度88.42mに赤矢印を記載していた。 また, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 171
73	H27-B-2	88.38	88.43	● 変位センスに変更がないため, 性状一覧表上は変更がない	●	薄片試料を再作製して観察		既存の薄片試料が適切に作製されていたかを確認したところ, 条線方向に平行に作製していないことが判明したため, 薄片試料が条線方向に平行になるように正しい方向で薄片試料の再作製を行い観察を行った。 再作製した薄片試料の観察における変位センス(右ずれを伴う逆断層)及び断層岩区分の評価(断層ガウジ)は, 変更前のデータと同じであった。	変更	薄片観察結果	添1 - 171
74	H27-B-2	88.88	88.94	●	●	最新活動面の深度 88.94m ^{注)}	最新活動面の深度 88.92m	最新活動面の深度の記載を88.94mから88.92mに修正する。コアの肉眼観察では最新活動面が判断できないため, CT画像を利用して, より直線的である深度88.92mが最新活動面であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に88.94mと記載していたが, 走向・傾斜の取得及び条線観察は88.92mで行われていたことから, 最新活動面の認定結果の反映もれと推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。 注) 令和3年7月16日提出資料において, 第833回審査会合資料の88.94mから88.81mへ修正したが, トレーサビリティの確保のため確認を行ったところ誤りであった。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 175
75	H27-B-2	120.63	120.65		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アプライト	当該破砕部周辺の健岩部について, コアでアプライトであることを確認したこと及び柱状図にアプライトとの記載があるため, アプライトに修正した。 従前は花崗斑岩としていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 177
76	H27-B-2	128.82	128.97	●		破砕帯名 D-44	破砕帯名 f-b-2-18	K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	連続性評価結果	添1 - 338
77	H27-B-2	133.75	133.92	●		走向・傾斜 N1E72E	走向・傾斜 N6E84E	最新活動面に対応する不連続面の走向・傾斜であるN6E84Eに変更する。BHTV画像の確認の結果, 従前は, 性状一覧表及び薄片観察結果に最新活動面でない不連続面の走向・傾斜「N1E72E」を記載していた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 178

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破碎部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
78	H27-B-2	133.75	133.92	●		条線 21L	条線 22L	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN6E84Eとなったため, 条線方向は22Lとなる。 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度133.75m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No.78に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 178
79	H27-B-2	134.15	134.23	●	●	走向・傾斜 N16E67E	走向・傾斜 N12E66E	最新活動面に対応する不連続面の走向・傾斜であるN12E66Eに変更する。 BHTV画像の確認の結果, 従前は, 性状一覧表及び薄片観察結果に最新活動面でない不連続面の走向・傾斜「N16E67E」を記載していた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 184
80	H27-B-2	134.15	134.23	●	●	条線 85L	条線 82L	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN12E66Eとなったため, 条線方向は82Lとなる。 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度134.15m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No.79に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 184
81	H27-B-2	152.10	152.15		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破碎部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアプライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 191
82	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	走向・傾斜 N44E80E	走向・傾斜 N21W21E	明確にした手順に従い再確認した結果, 最新活動面の走向・傾斜をN21W21Eに変更した。 BHTV画像を確認した結果, 孔壁崩壊により最新活動面の走向・傾斜が取得できないことから, 最新活動面近傍の走向・傾斜が取得できた割れ目の走向・傾斜(深度47.40m, N38E85NW)を用いて, その割れ目と最新活動面のコアにおける姿勢から最新活動面の走向・傾斜をN21W21Eと推定した。 従前は, 当該破碎部をK断層と同様な高角度傾斜であると仮定し推定した結果を用いていた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 192
83	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	条線 75L	条線 17R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN21W21Eとなったため, 条線方向は17Rとなる。 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度49.26m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No.82に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 192
84	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	正断層センス	右ずれセンス	走向・傾斜(N44E80E→N21W21E), 条線方向(75L→17R)が変更になることにより, 条線方向が低角度に変更となるため, 変位センスは右ずれセンスに変更となる。 なお, 薄片試料の観察自体は適切に実施されていた。	副次的変更 (No.82,83に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 192
85	H24-B14-2	49.24	49.55	●		破碎帯名 D-44	破碎帯名 f-b14-2-4	K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	連続性評価結果	添1 - 341
86-1	H24-B14-2	101.47	101.52		● 7/16提出資料のみ	走向方向に平行	条線方向に平行	当該破碎部は条線に平行に薄片試料を作製しているが, 薄片観察結果に作製方向を「走向方向に平行」と間違えて記載していたことから「条線方向に平行」に修正した。	修正	-	添1 - 210
86	H24-B14-2	101.47	101.52		● 7/16提出資料のみ	X: 走向方向(北向きを正とする)	X: 条線方向(下向きを正とする)	当該破碎部は条線方向が20Rであることから, X方向は条線方向を示すが, 薄片観察結果に「X: 走向方向(北向きを正とする)」と間違えて記載していたことから「X: 条線方向(下向きを正とする)」に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 210

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
87	H24-B14-2	101.47	101.52	●		破砕帯名 f-b14-2-6	破砕帯名 非モデル化	K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	連続性評価結果	添1 - 344
88	H24-B14-2	109.16	109.46	●		断層ガウジの幅 2.2cm	断層ガウジの幅 1.0cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を1.0cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度109.16~109.18mに分布する断層ガウジの幅は1.0cmであった。 従前は, 断層ガウジの幅を「2.2cm」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 211
89	H24-B14-2	109.16	109.46		●	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置: 断層ガウジの中央	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置: 断層ガウジの右端	薄片試料作製方向を確認した結果, ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置がずれていたため修正した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	薄片観察結果	添1 - 214
90	H24-D1-2	12.38	12.97	●	●	最新活動面の深度 12.85m	最新活動面の深度 12.86m	最新活動面を示す矢印については, 最新活動面認定方法の見直しに伴い, 1099回審査会合資料で示していた深度から変更している。詳細については, 添付資料3参照。	修正	最新活動面確認結果	添3 - 108
91	H24-D1-2	12.38	12.97	●		断層ガウジの幅 0.9cm	断層ガウジの幅 0.5cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.5cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度12.86~12.87mに分布する断層ガウジの幅は0.5cmであった。 従前は, コア観察カードに, 粘土の厚さ5mmの記載があり, 従前提示していたデータである0.9cmは断層ガウジの区間長を真幅と誤って記載していたと推定される。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 215
92	H24-D1-2	19.78	19.87		●	最新活動面の深度 19.87m	最新活動面の深度 19.82m	最新活動面の深度の記載を19.87mから19.82mに修正した。コアの再観察の結果, 深度19.82mのせん断面が細粒部を伴い最も直線的であることを確認した。 従前は, 薄片観察結果に深度19.87mと記載していたが, 走向・傾斜の取得, 条線観察及び薄片試料作成は19.82mで行われていたことから, 誤記と推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 219
93	H24-D1-2	31.44	31.46	●		明瞭なせん断構造・変形構造 無	明瞭なせん断構造・変形構造 有	明確にした手順に従いコアを再観察した結果, 最新活動面に沿った断層ガウジに灰白色, にぶい黄橙色及び灰赤色の層状構造が認められることから, 明瞭なせん断構造・変形構造を「無」から「有」に変更した。 従前は, 明瞭なせん断構造・変形構造を「無」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 「無」と記載した根拠がトレースできなかった。	変更	明瞭なせん断構造・変形構造の確認結果	添1 - 220
94	H24-D1-4	10.91	10.93	●	●	最新活動面の深度 10.91m	最新活動面の深度 10.93m	最新活動面の深度の記載を10.91mから10.93mに修正した。コアの再観察の結果, 深度10.93mのせん断面が細粒部を伴い最も直線的であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真に10.91mのせん断面を最新活動面として示し薄片観察結果に深度10.91mと記載していたが, 走向・傾斜の取得, 条線観察及び薄片試料作成は10.93mで行われていたことから, 誤記と推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 223
95	H24-D1-4	52.97	53.46		●	ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置の修正		薄片試料作製方向を確認した結果, ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置がずれていたため修正した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	薄片観察結果	添1 - 225
96	H24-D1-4	60.06	60.38	●		全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアプライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 226

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
97	H24-D1-4	61.47	61.52		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 227
98	H24-D1-4	63.67	63.90	● カタクレのため 記載していない	●	最新活動面の深度 63.88m	最新活動面の深度 63.90m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度63.90mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に63.88mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「63.88m」としていた根拠はトレースできない。なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 228
99	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	走向・傾斜 N19W89W	走向・傾斜 N20E88W	最新活動面の変更に伴い, 深度63.90mのせん断面における走向・傾斜であるN20E88Wに変更した。	副次的変更 (No.98に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添1 - 228
100	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	条線 90	条線 66L	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。明確にした手順により走向・傾斜がN20E88Wとなったため, 条線方向は66Lとなる。当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。最新活動面である条線観察位置(深度63.90m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No.99に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 228
101	H24-D1-4	63.67	63.90		●	薄片作製位置を示す赤枠の修正		薄片試料作製方向を確認した結果, 薄片作製位置を示す赤枠の位置を修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 228
102	H24-D1-4	63.67	63.90		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 228
103	H24-D1-3	14.41	14.52		●	X, Z方向の記載誤り		薄片試料の作製位置を確認し, 研磨片写真及び薄片全景写真に示すX方向及びZ方向を, とともに逆向きに記載を修正する必要性が確認された。研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のX方向, Z方向が正しくなるように写真を反転させることで修正した。従前提示していた資料ではX方向, Z方向ともに逆向きに記載していたことから, 結果的に変位センスは変わらない。	修正	薄片観察結果	添1 - 236
104	H24-D1-3	14.41	14.52	●		断層ガウジの幅 1.9cm	断層ガウジの幅 1.8cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を1.8cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度14.47~14.48mに分布する断層ガウジの幅としては1.8cmであった。 従前は, コア観察カードには粘土の厚さ15~18mmの記載があり, 従前提示していたデータである1.9cmは断層ガウジの区間長を真幅と誤って記載していたと推定される。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 237
105	H24-D1-3	34.23	34.52	●		断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 0.7cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.7cmとした。 ・コアの再観察の結果, 深度34.39~34.40mに分布する断層ガウジの幅は0.7cmであった。 従前は, 断層ガウジの幅を「0.8cm」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 240
106	H24-D1-3	52.13	52.28		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 243
107	H24-D1-3	52.13	52.28		●	複合面構造の解釈線の位置の修正		薄片観察結果の資料を確認したところ, 資料内で複合面構造の解釈線の位置に不整合があったことから修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 243

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
108	H27-B-3	26.70	26.90	●	●	最新活動面の深度 26.70m	最新活動面の深度 26.71m	最新活動面の深度の記載を26.70mから26.71mに修正した。コアの再観察の結果, 深度26.71mのせん断面が細粒部を伴い最も直線的であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真に26.70mのせん断面を最新活動面として示し薄片観察結果に深度26.70mと記載していたが, 走向・傾斜の取得, 条線観察及び薄片試料作成は26.71mで行われていたことから, 誤記と推定した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 244
109	H27-B-3	26.70	26.90	●		断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジの幅 0.2cm	明確にした手順に従い観察した結果, 以下の理由から断層ガウジの幅を0.2cmとした。 ・コアの再観察の結果, 断層ガウジは26.70mと26.71mにそれぞれ0.1cmずつ存在すると評価し, 断層ガウジの幅は合計0.2cmであった。 従前は, 当時の作業においてNo.108に記載している最新活動面の見直し結果が反映できていなかったことから, 断層ガウジを26.70mのみと誤認し0.1cmと記載したと推定される。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 244
110	H27-B-3	26.70	26.90		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 244
111	H27-B-3	28.12	28.14	●		破砕幅 2.0cm	破砕幅 1.0cm	コアを再観察した結果, 破砕幅を2.0cmから1.0cmに変更した。 従前は, 破砕幅を2.0cmとしていたが, 今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	破砕幅計測結果	添1 - 248
112	H27-B-3	28.12	28.14		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 248
113	H27-B-3	29.10	29.12	●		明瞭なせん断構造・ 変形構造 無	明瞭なせん断構造・ 変形構造 有	明確にした手順に従いコアを再観察した結果, 最新活動面に沿った断層ガウジに灰白色及び灰黄褐色の層状構造が認められることから, 明瞭なせん断構造・変形構造を「無」から「有」に変更した。 従前提示していたデータでは明瞭なせん断構造・変形構造を「無」としていたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 「無」と記載した根拠がトレースできなかった。	変更	明瞭なせん断構造・変形構造 の確認結果	添1 - 252
114	H27-B-3	42.85	42.91		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	破砕部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 255
115	H27-B-3	56.69	56.72		●	薄片作製位置を示す赤枠の位置の修正		薄片試料作製方向を確認した結果, 薄片作製位置を示す赤枠の位置を修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 256
116	H27-B-3	56.69	56.72		●	ブロックサンプルの最新活動面を示す 矢印の位置の修正		薄片試料作製方向を確認した結果, ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置がずれていたため修正した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	修正	薄片観察結果	添1 - 256
117	H27-B-3	56.69	56.72		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 256
118	H27-B-3	58.89	58.98		●	全景写真の記載 アブライト～花崗斑岩	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破砕部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライト～花崗斑岩としていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 257
119	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	走向・傾斜 データなし	走向・傾斜 N42E14W	明確にした手順に従い, BHTV画像を確認したところ, 孔壁崩壊により最新活動面(深度76.59m)の走向・傾斜が取得できていなかったため, 最新活動面近傍の割れ目の走向・傾斜(N8E38W)を用いて, その割れ目と最新活動面のコアにおける姿勢から最新活動面の走向・傾斜をN42E14Wと推定し, データなしからN42E14Wに変更した。 従前は, BHTV画像で走向・傾斜が取得できなかったためデータなしとしていた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 258

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破碎部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
120	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	条線 35R	条線 7R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて, 観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN42E14Wとなったため, 条線方向は7Rとなる 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており, 条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度76.59m)において試料を採取し, 今回設定した手順によって観察した条線方向により, 当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No119に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 258
121	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	左ずれ正断層センス	右ずれセンス	最新活動面の走向・傾斜及び条線をそれぞれデータなしからN42E14W及び35Rから7Rに変更した結果, 変位センスを左ずれ正断層センスから右ずれセンスに変更した。	副次的変更 (No.119,120に伴うもの)	薄片観察結果	添1 - 258
122	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	破碎帯名 H-3c	破碎帯名 非モデル化	K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	連続性評価結果	添1 - 347
123	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	Z方向の記載誤り		薄片試料のZ方向を, 破碎部の走向・傾斜を試掘坑で確認しているH-3c破碎帯のN8E70WからN42E14Wとして確認した結果, Z方向を逆向きに修正した。 従前の検討に用いていた走向・傾斜と変更後の走向・傾斜は同方向であることから, 当初からZ方向を逆向きに記載していた。	修正	薄片観察結果	添1 - 258
124	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレサイト	破碎部に母岩名称を記載していたことから, 最新の断層岩区分に従って当該範囲の評価結果に修正した。	修正	薄片観察結果	添1 - 258
125	H27-B-3	99.50	99.68	●	●	条線 52R	条線 2R	最新活動面である条線観察位置(深度99.56m)において試料を採取し, 再観察した結果, 条線方向を52Rから2Rに変更した。 従前のデータと比較した結果, 従前のデータは最新活動面で観察できていなかったものと判断した。	変更	条線観察結果	添1 - 271
126	H27-B-3	119.11	119.25	●	●	最新活動面の深度 119.15m	最新活動面の深度 119.18m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度119.18mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 従前は, 性状一覧表のコア写真上に赤矢印の位置, 薄片観察結果に119.15mと記載していたが, 従前の作業では今回の元となるデータに相当する記録を作成しておらず, 「119.15m」としていた根拠はトレースできない。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 276
127	H27-B-3	119.11	119.25	●	●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アブライト	当該破碎部周辺の健岩部について, コアでアブライトであることを確認したこと及び柱状図にアブライトとの記載があるため, アブライトに修正した。 従前は花崗斑岩としていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 276
128	H27-B-3	129.84	129.91	●	●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	当該破碎部周辺の健岩部について, コアで花崗斑岩であることを確認したこと及び柱状図に花崗斑岩との記載があるため, 花崗斑岩とした。 従前はアブライトとしていた。	修正	ボーリング柱状図 コア写真	添1 - 280
129	H27-B-4'	23.97	24.42	●	●	破碎幅 34.0cm	破碎幅 18.9cm	コアを再観察した結果, 破碎部の区間長が長く実測できないことから, 図化して算出した結果, 破碎幅を34.0cmから18.9cmに変更した。 従前は, 破碎幅を34.0cmとしていたが, 今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	破碎幅計測結果	添1 - 281
130	H27-B-4	29.74	29.78	●	●	破碎幅 3.7cm	破碎幅 2.3cm	コアを再観察した結果, 破碎幅を3.7cmから2.3cmに変更した。 従前は, 破碎幅を2.3cmとしていたが, 今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため, 根拠がトレースできなかった。	変更	破碎幅計測結果	添1 - 284
131	H27-B-4	65.59	65.72	※	●	最新活動面の深度 65.72m	最新活動面の深度 65.65m	明確にした手順に従いコアを再観察し, 細粒部を伴い最も直線的であることから, 深度65.65mを最新活動面とすることが適切であることを確認した。 なお, 当該部については, 補正書作成の最新活動面認定手順に従っても変更はない。 ※当該破碎部の最新活動面は, 第833回審査会合資料 机上配布資料2の性状一覧表に記載はなく, 令和3年7月16日提出の本編資料の性状一覧表に記載していた。	変更	最新活動面確認結果	添1 - 287
132	H27-B-4	65.59	65.72	●	●	走向・傾斜 NS78W	走向・傾斜 N1W80W	最新活動面の変更に伴い, 深度65.65mのせん断面における走向・傾斜であるN1W80Wに変更した。	副次的変更 (No131に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添1 - 287

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象破砕部			変更, 修正前の資料		変更, 修正の内容		変更, 修正理由 (橙色の部分については, 第1099回審査会合以降にデータを変更した箇所及び分類を再評価とした箇所)	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査会合資料 机上配布資料2)	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	前	後				
133	H27-B-4	93.13	93.22	●	●	走向・傾斜 N10E78W	走向・傾斜 N17E75W	明確にした手順に従い再確認した結果、最新活動面の走向・傾斜をN17E75Wに変更した。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 291
134	H27-B-4	93.13	93.22	●	●	条線 40R	条線 42R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて、観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN17E75Wとなったため、条線方向は42Rとなる 当時の条線観察は見直し後の最新活動面と同位置で実施されており、条線の変更はない。 最新活動面である条線観察位置(深度93.13m)において試料を採取し、今回設定した手順によって観察した条線方向により、当時の観察は正しいことを確認した。	副次的変更 (No.133に伴うもの)	条線観察結果	添1 - 291
135	H24-D1-5	47.47	47.89	●		断層ガウジの幅 2.0cm	断層ガウジの幅 0.6cm	明確にした手順に従い観察した結果、以下の理由から断層ガウジの幅を0.6cmとした。 ・コアの再観察の結果、深度47.47~47.48mに分布する断層ガウジの幅は0.6cmであった。 従前は、断層ガウジと平行に下端側に分布する灰白色の粘土質礫状の部分も断層ガウジであると誤認して測定したものと推定される。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添1 - 298

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象	変更、修正前の資料	変更、修正の内容		変更、修正理由	分類	エビデンス資料	記載頁
			前	後				
136	Lカットピット	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	R1, P面の位置の誤りを修正する		薄片観察結果の資料を確認したところ、資料内で複合面構造の解釈線の位置に不整合があったことから修正した。	修正	薄片観察結果※	添1 - 301
137	Lカットピット	薄片観察結果 (第833回審査会合資料 机上配布資料1)	ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置の修正		薄片観察資料に掲載しているブロックサンプル写真に最新活動面を示す矢印を記載する際に間違った位置に矢印を付けていたため修正した。	修正	薄片観察結果※	添1 - 301
138	Lカットピット	第833回審査会合資料 (資料1)	旧版のスケッチであったため、対象の露頭、露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ図を最新版※に差し替えて修正した。 ※従前提示していたスケッチ旧版作成以降、露頭の暴露期間中に硬軟の差が明瞭になり②層と③層の境界の見直しを行ったスケッチを作成済(有識者会合資料に使用)	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 302
139	D-1トレンチ平面図	第833回審査会合資料 (資料1)	2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		D-1トレンチ平面図に示している2-1ピットの形状を最新の形状に修正した。	修正	—※	添1 - 303
140	D-1トレンチ平面図	令和3年7月16日提出資料 (本編資料)	地質平面図 H24-H-2孔の線の方向と長さを修正		平面図上でのボーリング掘削方向と掘削長を実施内容と整合するよう修正した。	修正	—※	添1 - 304
141	D-1トレンチ平面図	第833回審査会合資料 (机上配布資料2)	K断層確認ボーリング孔の位置図 ボーリング孔の位置を修正		ボーリング位置がずれているため、実施内容と整合するように修正した。	修正	—※	添1 - 305
142	D-1トレンチ断面図(C-C')	第536回審査会合資料 (机上配布資料1)	2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		2-1ピットの形状を最新の形状に修正した。従前は形状が更新されていなかった。	修正	—※	添1 - 306
143	D-1トレンチ断面図(I-I')	第536回審査会合資料 (机上配布資料1)	H-12孔より南側の地表面が平坦	H-12孔より南側の地表面をピットの法面の形状に修正	D-1トレンチの形状を最新の形状に修正した。従前は形状が更新されていなかった。	修正	—※	添1 - 307
144	D-1トレンチ断面図(I-I')	第536回審査会合資料 (机上配布資料1)	K断層による地層の変位量の修正		断面図に記載しているK断層による地層の変位量を変更した。 従前提示していたI-I'断面では、K断層沿いの変位量が微小である図をしてしていたが、ふげん道路ピットにおける変位量(50cm)を考慮し、I-I'断面においても50cm相当の変位があると考え修正した。	変更	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 307
145	D-1トレンチ断面図(I-I')	第536回審査会合資料 (机上配布資料1)	H-12孔、H-13孔、H-16孔のボーリング掘削長を修正		断面図上のボーリング掘削長が実長と異なっていたため修正した。	修正	—※	添1 - 307
146	D-1トレンチ北西法面	第833回審査会合資料 (資料1)	旧版のスケッチであったため、対象の露頭、露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ図を新版に修正した(土壌化部の形状が正しいことを確認した)。 従前提示していたスケッチは旧版であった。従前提示していた旧版スケッチの作成以降、詳細観察を反映したスケッチを作成し(新版)、これを申請書にも掲載していたが、新旧を取り違えて旧版のスケッチを審査資料へ掲載したと推定される。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 310
147	D-1トレンチ北西法面	第833回審査会合資料 (資料1)	②層の色調 明青灰色(10B7/1)	②層の色調 明青灰色(10BG7/1)	②層の色調の記載を明青灰色(10B7/1)から明青灰色(10BG7/1)に修正した。 従前提示していたマンセル値が標準土色帖にないことから、マンセル値の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 310
148	K断層南方f-f'断面図	令和3年7月16日提出資料 (本編資料)	H-6c破砕帯分布の修正		破砕部④はH-6c破砕帯であると評価しており、f-f'断面上でH-6c破砕帯と破砕部④の位置のずれを修正した。	修正	—※	添1 - 311
149	D-1トレンチ1-1ピット北面	第833回審査会合資料 (資料1)	①層の色調 浅黄橙色(7.5YR7/3)	①層の色調 浅黄橙色(7.5YR8/3)	①の色調の記載を浅黄橙色(7.5YR7/3)から浅黄橙色(7.5YR8/3)に修正した。 従前は、記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから、名称の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 312
150	D-1トレンチ2-1ピット	第833回審査会合資料 (資料1)	②層の色調 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)	②層の色調 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)	②層の色調の記載を明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)から明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)に修正した。 従前は、記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから、名称の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 313

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	対象	変更, 修正前の資料	変更, 修正の内容		変更, 修正理由	分類	エビデンス資料	記載頁
			前	後				
151	D-1トレンチ2-1ビット	第833回審査会合資料 (資料1)	③層の色調 橙～浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/2)	③層の色調 橙～浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)	③層の色調の記載を橙～浅黄橙色, 灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)から橙～浅黄橙色, 灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)に修正した。 従前は, マンセル値を最も濃い橙(5YR7/8)と最も淡い灰白色(7.5YR8/2)のみ記載していたが, 名称を記載している浅黄橙色についてもマンセル値(7.5YR8/6)を記載することとした。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 313
152	D-1トレンチ 擁壁撤去法面	第833回審査会合資料 (資料1)	③層A層の色調 浅橙色(5YR8/3)	③層A層の色調 淡橙色(5YR8/3)	③層A層の色調の記載を浅橙色(5YR8/3)から淡橙色(5YR8/3)に修正した。 従前は, 記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから, 名称の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 314
153	原電道路ビット/ふげん道路ビット	第833回審査会合資料 (資料1)	⑧層の色調 橙色(5Y6/6)	⑧層の色調 橙色(5YR6/6)	⑧層の色調の記載を橙色(5Y6/6)から橙色(5YR6/6)に修正した。 従前は, 記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから, マンセル値の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 315
154	ふげん道路ビット東法面中段	第833回審査会合資料 (資料1)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	②層の色調の記載を灰白色(2.5Y7/12)から灰白色(2.5Y7/1)に修正した。 従前は, 記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから, マンセル値の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 316
155	ふげん道路ビット東法面中段	第833回審査会合資料 (資料1)	③層の色調 黄灰色(25Y6/11)	③層の色調 黄灰色(2.5Y6/1)	③層の色調の記載を黄灰色(25Y6/11)から黄灰色(2.5Y6/1)に修正した。 従前は, 記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから, マンセル値の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 316
156	ふげん道路ビット東法面下段	第833回審査会合資料 (資料1)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	②層の色調の記載を灰白色(2.5Y7/12)から灰白色(2.5Y7/1)に修正した。 従前は, 記載していた色調の名称とマンセル値が整合していないことから, マンセル値の記載誤りと推定した。	修正	スケッチ※ 露頭写真	添1 - 317
157	平面図・断面図	第833回審査会合資料 (資料1) 令和3年7月16日提出資料 (本編資料)	各データ修正内容の反映 (K断層の性状, K断層南方調査位置図, K断層南方調査結果平面図, K断層南方調査結果断面図)		破砕部のデータの変更及び修正に伴い, 平面図及び断面図が変更となる。K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う再評価箇所一覧表参照	再評価	—※	添1 - 350

トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表

No.	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回 審査会合 資料・机上 配布資料 2)	薄片観察 結果 (第833回 審査会合 資料・机上 配布資料 1)	変更, 修正の内容		変更, 修正理由	分類	エビデンス資料	記載頁
						前	後				
157-追1	H24-B14-1	37.86	37.91	●	●	最新活動面の深度 37.86m	最新活動面の深度 37.91m	最新活動面の位置について、性状一覧表では破砕部上端、薄片観察資料では37.86mと記載していた。当該箇所のデータはすべて破砕部下端(深度37.91m)で取得していたことから、記載を修正した。 見直し後の最新活動面認定方法においても、破砕部下端(深度37.91m)を最新活動面であることを確認している。	修正	最新活動面確認結果	添1 - 318
157-追2	H24-B14-1	37.86	37.91	●		断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジの幅 0.4cm	肉眼観察の断層岩区分の着眼点に基づき、断層ガウジとした範囲の幅の計測結果に変更した。	変更	断層ガウジ・断層角礫 の幅計測結果	添1 - 318
157-追3	H24-B14-1	43.19	43.62	●		走向・傾斜 N43E77SE	走向・傾斜 N37E84W	明確にした手順に従い再確認した結果、最新活動面の走向・傾斜をN37E84Wに変更した。 BHTV画像を確認した結果、孔壁崩壊により最新活動面の走向・傾斜が取得できないことから、最新活動面近傍で取得した走向・傾斜(N28E82W)を用いて、その割れ目と最新活動面のコアにおける姿勢から最新活動面の走向・傾斜をN37E84Wと推定した。 従前は最新活動面直上で取得した走向・傾斜(N43E77SE)を最新活動面の走向・傾斜として代用していた。	変更	走向・傾斜確認結果	添1 - 324
157-追4	H24-B14-1	43.19	43.62	●		条線 83L	条線 12R	条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて、観察された条線を補正して導出している。 明確にした手順により走向・傾斜がN37E84Wとなったため、条線方向は12Rとなる。 なお、最新活動面である条線観察位置(深度43.21m)において採取した試料を用いて、明確にした手順に基づいて条線方向を確認し、従前の観察は正しいことを確認している。	副次的変更	条線観察結果	添1 - 324